

認知症の進行と主な症状の例

認知症は少しずつ進行し、症状が変化していきます。家族や周囲が認知症を理解し、進行に合わせて対応していくことが大切です。

アルツハイマー型認知症の進行の例

認知症の進行

軽度認知障がい（MCI）

発 症

気づき ～ 軽 度

日常生活は自立

誰かの見守りがあれば日常生活は自立

本人の様子 の例

- ◎同じことを何度も言う
- ◎ものの忘れが目立つ
- ◎探し物が増える



中 核 症 状

- 保険証や通帳を失くし、何度も再発行した
 - 火のつけっぱなしで鍋などを焦がす
 - 日にちや曜日がはっきりしなくなる
 - 作る料理の味つけが単純になった
- など

行動・心理症状

- 物事への関心が薄れる
 - 外出を面倒がり、あまりしなくなった
 - 不安が強い
 - 「物を盗まれた」などのトラブルが増える
 - 失敗を指摘すると怒りだすこともある
- など

本人・家族向け アドバイス

◎いつもと違う、何か様子がおかしい、と思ったら相談しましょう。
家族の「気づき」がとても大事です。

かかりつけ医（P19）または
地域包括支援センターへ相談
裏表紙をご覧ください

本人にとってできないことが増えていくことは不安なものです。本人の不安に共感しながら、さりげなく手助けしましょう。できることをやり続けられるように見守りましょう。

また、早い段階で受診し、適切な治療を受けることが大切です。

本人・家族向けアドバイス
P.11 をご覧ください

※認知症の進行に伴い生じてくる主な症状の例です。

症状の現れ方には個人差がありますのでおおまかな目安とお考えください。

(右にいくほど発症から時間が経過し、進行している状態)

中 等 度

日常生活に手助け・介護が必要

中 核 症 状

- 場所がわからない
- 入浴を嫌がる
- 買い物ができなくなる
- 適切に服を選択できない
- 着替えがうまくできなくなる
- ついさっきのことも忘れる
- 家計が管理できなくなる
- 家族の顔や使いなれた道具がわからない
など

行動・心理症状

- 徘徊が多くなる
- 妄想が多くなる
- 昼夜逆転が起こる
- 暴言・暴力
など

本人は段々とももの忘れの自覚がなくなってきました。家族は、本人の行動の変化にとまどいや不安を感じるが増えてきます。

家族の負担が増えてきたら介護保険サービス等を利用しましょう。

本人・家族向けアドバイス
P.12 をご覧ください

重 度

常に介護が必要

中 核 症 状

- 言葉によるコミュニケーションが難しくなる
- 言葉（語彙や発語量）が減ってくる
- 表情が乏しい
- 尿や便の失敗が増える
- 歩行や食事など日常動作ができなくなり、いつも介護が必要
- 誤嚥性肺炎や尿路感染症などの合併症をおこしやすくなる
- 転倒や合併症を機に、寝たきりになってしまう
- 床ずれができやすくなる
など



本人はわからないことが増えてきますが、全てわからないわけではありません。温かい気持ちは伝わります。背中をさすったり、手を握ったりすると安心できる場合もあります。

ケアマネジャー等に相談して、家族の負担を減らしましょう。

本人・家族向けアドバイス
P.13 をご覧ください